

令和5（2023）年度

女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）

第1回 実施報告

実施日：令和5（2023）年 7 月 21 日（金）

女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）の第1回研修は、本県の地域課題の現状と課題に対する取組についての講話、今後の研修の中心となるグループ研究の進め方の説明、そして「地域で活躍するリーダーに求められること」と題しての国立女性教育会館の萩原なつ子理事長からの講話がありました。

講話「地域の現状と地域課題の解決に向けた本県の取組」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 白井 淳子

前半は、アイスブレイクによる受講者同士の自己紹介の後、持続可能な開発目標 SDGs の中で、「質の高い教育」「ジェンダー平等」について目標やターゲットが示されていることに触れました。次に、当センターの「地域課題に関する調査研究」から、「高齢化」や「過疎化・人口減少」が県民の課題認識の上位に挙がっていること、地域課題の認識は地域ごと、年代ごとに異なることの説明があり、受講者は、それぞれの地域課題について多角的・多面的に捉える視点を得ることができました。



後半は、地域課題解決のための取組として、地域課題解決学習を取り上げ、県教育委員会が作成した「地域元気プログラム」について説明がありました。受講者は、地域についての理解を深め、活動への意欲をさらに高めることができました。

説明「グループ研究の進め方」

総合教育センター職員

第1回ということで、受講者の自己紹介やグループ研究の概要説明、グループ編成を行いました。事前のグループ研究テーマの希望調査に基づき、話し合いにより、グループのテーマを絞りました。これから時間をかけて、テーマに沿った内容について調べたり、グループ内で話し合ったりしながら、研究を進めていきます。



講話「地域で活躍するリーダーに求められること」

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子 氏

萩原先生は、「社会環境学」「男女共同参画」「非営利活動論」等を専門としており、男女共同参画の視点から、これからの女性リーダーに求められる知識や考え方についてお話をいただきました。

はじめに、男女の身体的性差、ジェンダーの概念、日本の現状等の基本的事項について説明がありました。

次に、意思決定の場に女性がいること、地域づくりのプロセスに男女共同参画の視点・女性の意見を取り入れて反映することの大切さについてお話いただきました。「ジェンダー平等無くして持続可能な社会はない」という言葉が非常に印象的でした。

また、女性の地域活動に関する事例もご紹介いただきました。「としまF1会議」の説明では、これからの地域づくりの鍵となる考え方の1つとして、「コミュニティ ウェルビーイング（地域社会での幸福）」についてのお話がありました。

講話をとおして、受講者は様々なジェンダー・ギャップがあることや、身近であればあるほどそれらに気付きにくいことを理解するとともに、今後の地域課題解決の一助になる新たな視点を得ることができました。また、前向きに一步步進んでいこうとする意欲を高めることができました。



<受講者の感想から>

- ジェンダーということは、男女だけのことだと思っていました。環境とつながってくるということに驚きました。
- 自分の持つ基準の偏見に気付きました。視野を広げることができたと思います。
- ジェンダーや思い込みという概念を除いて、平らな気持ちで地域の活動に取り組みたいと思いました。
- 子育て世代の男女に、一緒に立ち上がってほしい。そうしたいと思いました。みんなで前を向いていけるような活動をしていきたいです。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp